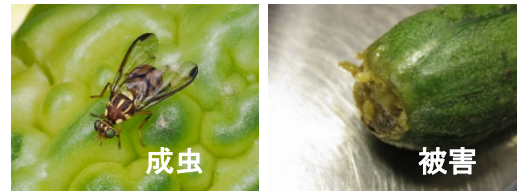


セグロウリミバエの効果的な防除対策の確立に向けた研究

- 1 代表機関・研究統括者
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 眞田 幸代
- 2 研究期間：令和8年度（1年間）
- 3 研究目的
侵入警戒有害動植物に指定されているセグロウリミバエに対して、省力的かつ効果的な抑圧防除技術を開発するとともに、本種の分散生態を解明し、蔓延防止に向けた効果的な防除対策の確立を図る。
- 4 研究内容及び実施体制
 - ① 省力的、効率的な抑圧防除技術の開発
ドローンを用いた省力的・効果的な殺虫剤散布手法を開発する。また既存データから本種による寄生果実の発生リスク評価法を開発する。
(鹿児島県農業開発総合センター、農研機構)
 - ② 分散生態の解明
ゲノム解析、後退飛翔軌道解析、誘殺データに基づく分散距離推定から、侵入源となる地域および国内分散経路などの分散生態を解明する。
(農研機構)
- 5 最終目標
ドローンを活用した省力的かつ効果的な薬剤散布による防除技術を開発するとともに、本種の分散生態を解明し、トラップへの誘殺に即応した初動防除および継続的な抑圧防除対策を確立する。
- 6 期待される効果・貢献
セジロウリミバエの侵入や定着に対応した効果的な防除対策が確立され、寄主植物であるウリ科作物等の安定生産に寄与するとともに、根絶が達成できれば移動制限が解除され県外出荷や輸出が活性化する。

研究の目的

侵入警戒有害動植物に指定されているセグロウリミバエが、鹿児島県島嶼部で発生し、**ウリ科作物に被害**



「出典：農林水産省植物防疫所」

- ✓ 根絶に向けた防除対策として、防除資材設置・殺虫剤散布・寄主植物除去等が必要。
- ✓ しかし、作業を人力(手作業)で実施しているため、労力がかかる、雑木林や藪内の野生寄主植物での発生抑制が困難という問題。

- ドローンを活用した省力的かつ効果的な抑圧防除技術を開発
- 本種の分散生態を解明し、蔓延防止に向けた効果的な防除対策を確立

研究の内容

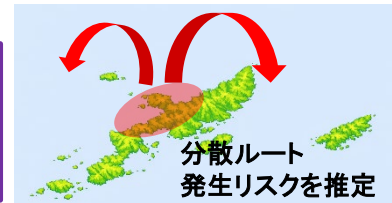
①省力的、効率的な抑圧防除技術の開発 (鹿児島県農開セ、農研機構)

- ◆ ドローンをを用いた省力的・効果的な殺虫剤散布手法を開発
- ◆ 既存データから本種による寄生果実の発生リスク評価法を開発



② 分散生態の解明 (農研機構)

- ◆ ゲノム解析、後退飛翔軌道解析、誘殺データに基づく分散距離推定から、侵入源となる地域および国内分散経路などの分散生態を解明



最終目標

- ドローンを活用した省力的・効果的な薬剤散布による防除技術を開発
- 分散生態を解明し、トラップへの誘殺に即応した初動防除および継続的な抑圧防除対策を確立

期待される成果

- セグロウリミバエの効率的防除
- ウリ科作物等の安定生産
- ウリ科作物等の移動制限解除による県外出荷や輸出の活性化